

受講番号 18045 学校名 中村高等学校 氏名 門脇 由利

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 25 名
 科目名 ライティング 単位数(授業時数) 2 時間 使用教科書名 POLESTAR Writing Course

クラスの様子・特徴

普通科の習熟度別に分けられた6クラスの中の1クラス25名を対象とした。1学期は26名だったが、2学期はメンバーの入れ替わりが少しあり、新編成でスタートした。1学期に比べ全体的におとなしくなったが、英作に対する意識は高いように思える。

問題の確定

実情として、「単語、文法の基本事項が定着していない」等の問題点があげられる。

予備調査

A 授業の観察

授業中の、質問に対する受け答えは積極的である。単語問題や英作をする時、ヒントを与えるとスムーズにできる。1学期は教科書の問題を解くことや音読等に積極的に取り組めた。2学期はテーマを与えての英作練習により、書く意欲が向上したように感じる。

B 生徒による授業評価

1学期に実施した調査によると、ライティングの授業で力を入れたいことは「文法の理解」や「単語力」、「英作ができるようになりたい」であった。また、英語が好きか嫌いかの質問に対して「好き」と答えた生徒の中に「英作が楽しい」という意見があった。

C 学力データ

4月スタディサポートでは、偏差値46以上56未満を表す到達度B1～B3の生徒は26名中5名、他は偏差値36以上46未満を表す到達度Cであった。校内課題テスト平均は56.2点、一学期中間試験平均は55点、期末試験平均は54点であった。

リサーチ・クエスト

英作に対して意欲があるクラスで、どうすれば教科書に出ているような基本パターンを身につけて簡単な英作ができるようになるだろう。

仮説・実践・検証

仮説1

単語・例文の作成等の課題を与えたり、漫画を用いて楽しみながら空所補充テストをしたら、語彙力向上につながり、英作しやすくなるのではないだろうか。

実践1

単語・例文の作成課題は提出自由として意欲を見ることとした。単語テストにおいては、1学期は教科書の単語を小テストにしていたが、2学期は毎回10問を基本として、日本でなじみの深い漫画「ドラえもん」の英語版を用いて基礎的な単語を空所補充問題として出題した。日本語訳と対照させて勉強が可能であり、身近な生活の一コマなので、楽しみながら英語のセンスを磨くのをねらいとした。

検証1

ドラえもん単語の平均正解率は50%。お菓子sweetsや、未来(将来)futureなど何回も()抜きにする単語は定着してきたようである。同時進行で取り組んだ英作課題の変化としては、3回分を得点化して平均すると少しずつ向上している。1回目は10点中6.04点、2回目は6.5点、3回目は8点。使える単語を使って英作をしているので、文章の分量が増えた。

仮説2

授業において、内容理解後、意味のまとまりを意識させながら英文を読めば、句の理解へとつながり、英作に取り組むやすくなるだろう。

実践2

2学期の授業での取り組みは、3学期に実施される校内スピーチコンテストに向けての原稿作成の素地を作ることが主だった。教科書とは別のテキスト「田尻悦郎の英語語順トレーニング」というテキストを用いて学習した。語句整序問題を解き、句のまとまりをとらえることに注意させた。問題の英文全体を通して一斉に音読させた。

検証2

数人の生徒へのインタビューから分かったことは、「句のまとまりや並びが分かった」、「ヒントがあると分かるけど、語句がたぐさん出てきたら分からなくなる」、「まだまだ練習が足りない」などである。また、英作に関する意識調査によると、句のまとまりを理解できていたら英作しやすいという意見が何人かあったので、句の理解の大切さを認識でき、意欲は高まったようだ。

仮説3

英作の練習をする機会を増やせば、表現することの楽しさを感じることができ、自信が付き、意欲的に既習事項を思い出しながら英作に取り組めるだろう。

実践3

一回目は、自分の考えを述べる題材として「都市や町について」の英作、二回目は、クラス単位で活動した「ホームデー」についての英作、三回目は「愛」というテーマを与えての英作、四回目は「自分に関すること」の英作に取り組んだ。「基本は10文以上、一文につき5語以上使う」とした。授業時間は1時間半から2時間をかけて取り組んだ。添削については「書く意欲」を中心に、文法事項はおおまかに点検するにとどめた。

検証3

生徒の作品を見ると、思いつくことのできる単語量が増え、書く意欲が高まったようだ。書くうちに文構造上の進歩もあった。12月初めのアンケートによれば、英作が好きな生徒は11人、嫌いは10人で、「好き・嫌いは別として、書く力が1学期より上がったと思うか」の質問には21人が「はい」と答えている。

研究の成果

週に2時間しかないライティングの授業で、書く力をつけるにはどのような方法が効果的か考えた1年だった。基礎的な事項が身につけていない生徒が多い。単語習得にはなじみやすい題材を使い興味をひきつけたり、英作に関しては、意欲を高め思ったように自由に書くことができるように、やる気の出るようなコメントをつけて添削したことは効果があったのではないかと考えている。生徒は返されたプリントのコメントやアドバイスをよく読んでいた。句のまとまりを意識させたいと思いついたが、もう少し回数ややり方を工夫しないと定着は難しいと思った。

今後の授業改善の課題

今回のARでは、明確な目標を定めて授業に取り組んだはずだが、途中でいろいろ迷いが生じ「もっと良い方法はないか」と考えているうちに1年が過ぎた感じだ。思いつきでやったりして継続できないことがあったりするので、教材を吟味する必要がある。今後の課題としては、単語の習得に関して有効な方法を考えテストも工夫し、英作指導に関しては、段階的に取り組み成果が具体的に分かるようなものと考えていきたいと思う。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 0880-34-2141

電子メール

yuri_kadowaki@kt5.kochinet.ed.jp